

伝統野菜・珍野菜のゆくえ

『いとめづらし(仮称)』便り

らでいしゅぼーや(株)農産部仕入課 横倉 一賀

品種の発祥地を調べて見ると、早くから文明の発達してきた地域が多く、それが伝わり、残されてきた在来種は生きた文化遺産であり、それが地球上から失われた場合、二度と再びその品種を作り出すことは不可能と聞くとぜひとも残していきたいと思うのであります。

Report

■いとめづらし進行中

現在、伝統的な野菜のほか見た目の変な野菜など試みに作ってくださる有志の方を募集しています。というのも『いとめづらし(仮称)』シリーズでは100選と謳っていますが現状の実績は40品ほど。準定期「種蒔く人」でお届けしているのは28品。まだまだなのです。できてみないとわからないものが多いので、最初は少量からお願いしようと思っています。

大手の種屋さんでも変な野菜や伝統野菜の種を扱っていますが、農産部では主に野口種苗さんを通じてさまざま



野口種苗さんから購入した種

な固定種の種を紹介してもらって

います。白い人参、三角錐型キャベツ、黒い大根、丸いズッキーニ、三尺きゅうり、ミニトマトや桃太郎を自家採種して固定したものなど固定種だけで30種類以上。固定種は味を優先して選ばれてきたものが多いので期待も大です。

■「食べてみたい!」を共感してもらう

東北かあちゃん集会の後に、25種類ほど購入しました。変な野菜というだけでなく固定種という広い基準で購入、収穫できれば前出の「種蒔く人」にも入れられる野菜です。購入した種を農産部内の産地担当者に見せ、各担当産地にぜひ作ってほしいものがあれば、ということで配ってもらいました。「トマトの生産者さんにアロイトマト(桃太郎の固定種)を」と

いった感じで。けれどもやはり、先ずは自分が食べてみたいと思うものを作っていただくのが良いかと思います。自分が食べて美味しいと思うものを他の人にも共感してもらいたいという思いが生まれれば自然と広がっていくのではと思っています。どんな種があるかは農産部の各産地担当者にお問い合わせください。



プロフィール

横倉一賀

68年生まれ。入社8年目。

王道館空手初段、太極拳

誠拳法1級錬士。日本人

固有のものを身につけよう

と武道を8年前から始め

た。力による組み手に限界を感じ、バランスによる組み手(自分は常に10の力を出せる状態を保ち、相手のバランスを崩して力をださせない組み手)を目指している。目標は80歳になっても現役プロボクサーと対等の組み手ができること。

味の箱舟プロジェクト始動

スローフード協会

去る1月8日、宮城県にてスローフード協会(本部イタリア)の国内コンヴィヴィウム(支部)が集まる初会合が開催されました。目的は日本での「味の箱舟プロジェクト」をスタートさせること、そしてこれを機に国内各地の支部同士のヨコの連携を深めていこうというものでした。

会合には、すでに私たちの間ではおなじみ、イタリアから国際本部副会長のジャコモ・モヨリさん、今回の企画の呼びかけ人としてノンフィクション作家の島村菜津さんも参加。幹事団体となったニッポン宮城スローフード協会のほか、岩手、山形、東京、大阪などから約30名の会合となりました。

「味の箱舟プロジェクト」とは「消えつつある伝統の食材や郷土料理を選定し、保存することを進める活動」で、これまで世界各地で実践されてきましたが、日本でのスタートはこれが初めてです。

その提案はモヨリさんから。日本でのスローフードの取り組みが世界共通に、かつ公式に運営される仕組みとして、味の箱舟にリストアップされるであろう食材に対し、同時進行で科学的な評価を付与できる科学委員会の設置が提案されました。すでに味の箱舟を進めている各国で、この仕組みは「アルカ」と呼ばれ、スローフードの活動に学術的な要素を加え、他方ではスローフードからもたらされる様々なアイデアを学術の世

界にもたらす、とのことでした。

この提案は今後、全国の支部との連絡を密にしつつ内容を詰め、最終的には6月に全国連絡組織を設立することを当面の目標として動き出します。イタリア発、日本のスローフード。これからどのように育っていくでしょう。その動きに注目です。

(事務局・竹内)

※この会議の様子が新聞で紹介されました。16ページをご覧ください。

味の箱舟5つの選択基準

- ① その生産物が特別においしいこと
この場合のおいしさは、その土地の習慣や伝統を基準にすること
- ② その生産物が、ある特定の集団の記憶と結びついたものであり、その土地に、ある程度の長い年月にわたって存在した動植物の種であること。また、その土地の原材料が使われた加工、発

酵食品であるか、また、地域外の原料であっても、その地域の伝統的製法によるものであること。

- ③ その地域との環境的、社会経済的、歴史的つながりがあること。
- ④ 小さな作り手により、限られた生産量であること。
- ⑤ 現在、あるいは将来的、消滅の危機に瀕していること。